

令和6年度
校長だより



あかつき

5月号



～ あかつき山の麓から感謝を込めて ～

丹波市立新井小学校 校長 谷川知美

5月も半ばとなり、校長室の窓からは、あかつき山の新緑がまぶしいほどに輝いて見える季節がやってきました。地域の皆様におかれましてはますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

また、平素から本校の学校教育活動へのご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

ボランティア活動 ありがとうございます



先日、緑が濃くなってきたなあ美しい景色に見とれながら、頭の中では、すくすくと伸びる草たちをどう処理しようかと考えていました。軽い気持ちでPTAの役員さんに「草が元気で…」と話していると、「5月11日（土）のリサイクル活動後に草刈りをやりましょう。」「子どもたちの遊び場を良い環境にしてやりたい!」と仰ってくださいました。

そこでボランティアの方にも連絡して、草刈り作業を行いました。1時間半ほどの

作業でしたが、遊具の周りや校舎の後ろ、あかつき山など、かなりの場所が見違えるほどすっきりしました。総勢10人で行いましたが、これだけの方に来ていただけたことに、本当に感謝しています。

すでに永眠されている、昔のある学校長が、「草のない学校にしたい（①子どもが運動場で元気に遊び、草が生えない ②地域の力をお借りして草刈りができる）」とおっしゃっていた話を聞いたことがあります。まさに、今日の新井小学校のことだと思ひ、本当にありがたく、嬉しい気持ちになりました。

新井小学校の子どもたちは、良く外に出て遊び、休み時間や放課後にあかつき山に登っています。おかげ様で、伸びた木の枝や、草の茂みを気にすることなく、あかつき山で充実した時間を楽しんでくれています！

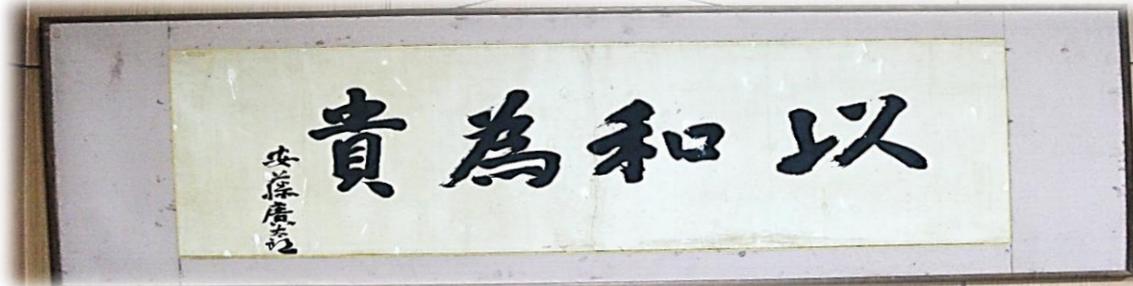


心身ともに豊かに育ちますように！

どこにあるでしょう？



校長室です



毎日、校長室の机に向かって事務仕事をしていますが、顔を上げるとまず目につくのが、この「貴為和以」です。

近づいて確認すると、安藤廣太郎（あんどろひろたろう）さんによって書かれた書で、地域の方から学校に寄贈されたものでした。

この和を以て貴しと為す（わをもってとうとしとなす）は、聖徳太子が制定した十七条憲法の第一条に出てくる言葉で、故事ことわざ辞典には、

何事をやるにも、みんなが仲良くやりいさかいを起こさないのが良いということ。

と書かれています。

「和」を何よりも大切なものとしなさいという教えなのですが、調べてみると「仲よくするために、自分の意見を言わずに我慢したり、相手に合わせたりすること」ではないことがわかりました。

「和」の精神とは、体裁だけで取り繕ったものではなく、自分にも相手にも正直に意見があればお互いにそれをぶつけ合い、理解し合うということが大切なことなのだそうです。職場でも地域のコミュニティにおいても同じことが言えると思いました。

もちろん、新井小学校の子どもたちにも同じことが言えます。嬉しいことに、子どもたちはまだまだ成長過程にあり、とても

正直で、一生懸命に自分の思いを友達にも教職員にも伝えようとしてくれます。また逆に、とても遠慮がちで、気持ちの表現が苦手な子どももいます。

一人ひとりに個性があるように、考え方も一人ひとり違います。同じような意見でも、よく聞いてみるとニュアンスが違うことがしばしばあります。それがトラブルのもとになることが多いのですが、授業やけんかの後で、お互いの考えを伝えあって議論し、気持ちが整理できたり新しい考えが浮かんだりする光景を何度も見ました。理解と納得が得られる瞬間です。その行程こそが「和」の本質であり、良い人間関係を築くうえで、大変重要なものだと感じています。

この先の社会がどのように変化するかはわかりません。「持続可能な社会」とよく耳にされると思いますが、新井小学校で過ごした6年間で、社会で自立し自分らしく生きていける大人に育つための基礎づくりの場所となるよう願っています。

安藤廣太郎（あんどろひろたろう）

（明治4年～昭和33年）

お米の研究に一生をささげ、日本で初めて稲の人工交配による新種の作成に成功した。稲作改良に大きく貢献した農学者である。柏原町出身。